

令和2年11月30日
東京大学 森川博之

- ✓ 仮想化／オープン化，米中分断がゲームチェンジとなり得る．日本が浮上する千載一遇の機会．多くのステークホルダーを巻き込みながら，マクロな視点で日本の立ち位置を深く洞察することが大切．
- ✓ 新たな周波数帯の利用に向けては，デバイスの研究開発も必要だが，事業につなげるためにはエコシステムも考えておかなければいけない．超高速フォトニックインターネット推進協議会（PIF）で光デバイス開発につなげたときのように，深く議論をした上でプロジェクト組成につなげることが大切．研究開発と産業政策とを切り離さずに同時にしっかりと考える場を構築することも大切である．
- ✓ 研究開発プロジェクトにおいても多様性は重要．10年前のグーグルのカスタマーサクセスチームの人材採用基準は「技術に疎い人」．多様性のある研究開発プロジェクトチームの組成が肝要．
- ✓ 5Gの時代になると，ステークホルダーも多様化する．多様なステークホルダーを巻き込んで，つないで，市場のパイを広げていくような活動が必須．このような人材（無線技術者以外）へのリソース投入も必要である．
- ✓ 「技術で勝ってビジネスで負ける」理由を極論すると，リソース配分の違いであるように感じている．諸外国では，「巻き込む場」「集まる場」（広報，マーケティング，カスタマーサクセス人材など含む）の構築など，柔らかいところにもかなりのリソースを配分している．
- ✓ 周波数の共用，移行，再編に向けては，「見える化」を引き続き推進し，エビデンスベースで検討することが大切．
- ✓ 公共財を有効に活用するためには，レガシーなシステムの更改を積極的に進めていくことが大切．そのためにも，継続的に投資し続けることが重要である．
- ✓ 電波監理業務のプロセス全体を見渡し，業務プロセス全体の変革につなげていく．「業務にデジタルを合わせる」のではなく，「デジタルに業務を合わせる」意識でもって，業務プロセス全体を変えていくことが大切．デジタルツールの導入だけでは，真の意味でデジタルの効用を得られない．
- ✓ ワイヤレス人材の育成も大切だが，Beyond 5Gを見据えての人材「発掘」の視点も必要．例えば，AI人材はBeyond 5G時代に必須となるが，現時点では残念ながらモバイル分野への参入は限定的．上記「巻き込んで，つないで，市場のパイを広げる」人材もモバイル分野には乏しい．これらの人材を発掘して巻き込むことも大切．
- ✓ トップダウンとボトムアップの両方あることが重要．研究開発，人材育成／発掘などにおいては，トップダウンで戦略的に動くものと，ボトムアップで草の根的に動くもの双方への支援が必要．
- ✓ 5G電波の安全性に関して多くの方々に的確に認識いただくために，無線分野以外の方々をも巻き込むことが大切．